

基本目標	1. 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり			
施策の方向	1-1家庭・地域における子どもの人間形成			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
親子・子ども同士の交流の場や自然の中での多様な体験の場が充実している	就学前児童 51.2 就学児童 52.4	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 57.9 就学児童 52.7	△

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①家庭や地域における教育力の向上

①	事業名	ここにこサークル	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施箇所数の増
	進捗状況 (数値目標有り)	21年度現状値 20か所	26年度目標値 37か所	25年度見込み 31か所
	進捗評価	B		
	ニーズ調査 参考	■前:問40「ここにこサークル」 ・地域の子育て支援拠点のうち、ここにこサークルを利用している割合、13.5% ・いずれも利用していない割合、57.0%		

②	事業名	子育てサポーターの養成	計画策定時の 事業の方向性	拡大:講座の拡充及び参加者の増
	進捗状況 (数値目標無し)	○講座実施回数 21年度 14回 → 25年度 15回 ○子育てサポーター人数 21年度 142人 → 25年度 221人(見込み)		進捗評価 A'

③	事業名	幼児ふれあい教室	計画策定時の 事業の方向性	拡大:講座数の増
	進捗状況 (数値目標無し)	○講座数 21年度 33講座 → 25年度 40講座 ○参加人数 21年度 1,283人 → 25年度 1,419人		進捗評価 A'
	ニーズ調査 参考	■前:問39、後:問38「家庭教育講座、幼児ふれあい教室」 ・事業を知っている 就学前54.1% ・これまで利用している 就学前24.1% ・今後利用したい 就学前68.0%		

推進施策②:地域や自然の中での多様な体験活動の充実

①	事業名	子育て支援地域活動事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施施設の増
	進捗状況 (数値目標有り)	21年度現状値 33か所	26年度目標値 36か所	25年度見込み 45か所
	進捗評価	A		
	ニーズ調査 参考	■前:問39。「保育所子育て支援地域活動」 ・事業を知っている 67.8% ・これまでに利用したことがある 40.7% ・今後利用したい 69.9%		

②	事業名	保育所地域活動事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施施設の増
	進捗状況 (数値目標有り)	21年度現状値 36か所	26年度目標値 39か所	25年度見込み ※平成25年度より子育て支援地域活動へ統合

総合評価	課題
B	就学前児童についてはほぼ目標値に近い評価を得ており、各施策における個々の事業の拡大の成果と考えられるが、利用度の低い事業もあり、利用拡大に向けた取り組みが必要である。 就学児童については前回調査時とほぼ同じ評価であり、今後は就学児童の交流の場の充実が必要と思われる。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	1. 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり			
施策の方向	1-2 学校を通した子どもの人間形成			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
子どもの教育環境が充実している	就学前児童 48.1 就学児童 50.9	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 60.7 就学児童 58.9	就学前◎ 就学 △

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①:個性と創造性を育む学校教育の推進

①	事業名	開かれた学校づくりの推進	計画策定時の 事業の方向性	拡大:学校評価システムの充実
	進捗状況 (数値目標なし)	・学校の「自己評価書」をもとに、学校関係者による評価を実施して改善策を検討するとともに、その結果を学校新聞やHPで公開し、取り組み状況を発信している。		進捗評価 A'

②	事業名	新入学児童学級対応等支援事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:支援員配置の増と資質向上
	進捗状況 (数値目標なし)	・支援員を増員するとともに、支援の必要性が高くなった学校に対しては、年度途中でも支援員を配置転換できるようにして、柔軟に対応できるようにした。		進捗評価 A'

推進施策②:教育体制の充実

①	事業名	英会話のできる豊橋っ子の育成	計画策定時の 事業の方向性	拡大:英会話教育の推進
	進捗状況 (数値目標なし)	・こここde英語っ子(小学生)、I LOVE TOYOHASHIイングリッシュツアー(中学生)を展開し、児童生徒が英語活動に親しめる活動の充実を図った。 ・本事業の全国発表を行い、事業の検証を行うとともに今後の方向性を検討した。		進捗評価 A'

②	事業名	外国人児童生徒相談コーナー (子ども多文化共生センター設置)	計画策定時の 事業の方向性	新規
	進捗状況 (数値目標なし)	・バイリンガル相談員の常駐体制を整え、学校と連携して迅速に対応できるようにした。 ・フィリピンからの児童生徒の増加を受けて、タガログ語の相談員を増員させた。		進捗評価 A'

③	事業名	学校図書館活動推進事業	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	・中央図書館にあった授業学習支援センターを教育会館に移し、選書スタッフの他に新たに支援スタッフを常駐させて学校への円滑な支援が行えるようにした。		進捗評価 A'

総合評価	課題
A	個別な支援を必要とする児童生徒やタガログ語を言語とする児童生徒の増加など、社会の変化に伴って学校の教育環境も大きく変化してきている。こうした変化に対応していくための具体的な施策を早急に打ち出していくことが求められている。また、子どもたちの学びを深めるために、英語活動や学習支援体制の充実に取り組んできたが、こうした取り組みの検証を通して改善策を検討していく必要がある。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	1. 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり			
施策の方向	1-3 子どもの主体的な活動の尊重			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
子どもが気軽に利用できる施設や場所が整っている	就学前児童 49.3 就学児童 42.7	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 59.6 就学児童 49.0	就学前○ 就学△

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 遊び場、施設等の充実

①	事業名	こども未来館の運営	計画策定時の 事業の方向性	拡大: 事業内容の充実及び入館者の増
進捗状況 (数値目標なし)		利用者数 21年度 510,411人→ 25年度 600,000人(見込み)		進捗評価 A'
ニーズ調査 参考		<ul style="list-style-type: none"> ■前:問39、後:問38「こども未来館「ここにこ」」 <ul style="list-style-type: none"> ・事業を知っている 就学前96.3%、就学後95.8% ・これまで利用している 就学前82.7%、就学後81.1% ・今後利用したい 就学前92.1%、就学後84.1% ■前:問42、後:問39「子どもの遊び場について、日頃感じていること」 <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日に遊べる場所がない、就学前65.4%(1位)、就学後72.9%(1位) ・遊具などの種類が充実していない、就学前39.2%(2位)、就学後40.2%(2位) 		

②	事業名	交通児童館事業	計画策定時の 事業の方向性	継続
進捗状況 (数値目標なし)		延利用者数 21年度 296,567人→ 25年度 333,000人(見込み)		進捗評価 A'
ニーズ調査 参考		<ul style="list-style-type: none"> ■前:問39、後:問38「交通児童館」 <ul style="list-style-type: none"> ・事業を知っている 就学前87.7%、就学後93.1% ・これまで利用している 就学前61.5%、就学後78.0% ・今後利用したい 就学前91.9%、就学後79.1% ■前:問42、後:問39「子どもの遊び場について、日頃感じていること」 <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日に遊べる場所がない、就学前65.4%(1位)、就学後72.9%(1位) ・遊具などの種類が充実していない、就学前39.2%(2位)、就学後40.2%(2位) 		

推進施策②: 子どもの年齢に応じた居場所づくり

①	事業名	放課後児童クラブ	計画策定時の 事業の方向性	拡大: 未設置校区の解消と定員の適正化
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 47か所	26年度目標値 55か所	25年度見込み 65か所
		登録児童数 21年度 2,301人 →25年度 2,289人(5月時点)		進捗評価 A

②	事業名	放課後こども教室	計画策定時の 事業の方向性	継続
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 5	26年度目標値 8	25年度見込み 6
		登録児童数 21年度 393人 →25年度 215人(5月時点)		進捗評価 C

推進施策③: 青少年への活動支援

①	事業名	こども未来館の運営参画	計画策定時の 事業の方向性	新規
進捗状況 (数値目標なし)		高校生ボランティア参加人数 21年度 27人→25年度 133人(見込み)		進捗評価 A'

総合評価	課題
A	全体的に事業は順調に進捗しており、就学前児童についてはほぼ目標値に近い評価を得た。ただし、就学児童については前回調査より7ポイント程度の伸びにとどまっており、就学児童にとっての身近な居場所づくりの充実が課題である。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	1. 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり			
施策の方向	1-4 次代の親としての子どもの人間形成			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
子どもが生命の大切さや性についての正しい知識を学ぶ機会がある	就学前児童 14.9 就学児童 21.2	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 26.6 就学児童 30.9	就学前○ 就学△

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 親となるための教育の充実

①	事業名	赤ちゃんふれあい体験	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	実施校数 21年度 2校 → 25年度 3校		進捗評価 A'

②	事業名	中学生と幼児とのふれあい体験などの学習	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	・キャリア教育の一環として82%の中学校において2年生の一部が体験学習を行っている。また、64%の中学校において3年生が保育実習を行っている。		進捗評価 A'

推進施策②: 思春期保健対策の充実

①	事業名	まちづくり出前講座(学校版)	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施校の増
	進捗状況 (数値目標なし)	実施校数 21年度 19校 → 25年度 20校		進捗評価 A'

②	事業名	性教育の実施(出前講座)	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	実施校数 21年度 14校 → 25年度 22校		進捗評価 A'

総合評価	課題
A	各事業とも順調に進捗しており、いずれの評価指標も前回調査からの伸びはみられるものの、目標値まではまだかなりの開きがある。いずれの事業も学校において子どもに対し働き掛けていく事業であり、保護者にとっては成果として見えにくい部分もあると考えられるため、保護者に対してもこれらの事業の実施についてPRしていく必要があると考えられる。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	1. 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり			
施策の方向	1-5 子どもの人権を尊重した環境づくり			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
児童虐待の早期発見や防止等子どもの人権を守る体制が整っている	就学前児童 20.3 就学児童 27.4	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 27.5 就学児童 26.9	就学前△ 就学 ▼

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 子どもの権利に関する啓発活動の充実

①	事業名	子どもが主役の子ども会議の開催	計画策定時の 事業の方向性	新規
	進捗状況 (数値目標なし)	22年度「子どもの居場所」「望む大人像」 小学4～6年生19人 23年度「みんなでつくる交通児童館」 小学生6人 25年度「子どもの権利と子ども虐待」 高校生15人		進捗評価 A'
	ニーズ調査 参考	■前:問43 後:問40「子どもの権利に関する国際的な条約があることを知っていますか」 ・知らない 就学前 69.1% 就学後 68.7%		

②	事業名	人権啓発活動	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	訪問授業実施園・校数 21年度 8園20校 → 25年度 18園13校		進捗評価 A'

推進施策②: 児童虐待防止体制の充実

①	事業名	児童相談	計画策定時の 事業の方向性	拡大:相談窓口の認知度の向上
	進捗状況 (数値目標なし)	・従事職員数 21年度 3名 → 25年度4名 ・虐待相談件数 21年度 99件 → 25年度 131件(2月末現在)		進捗評価 A'

②	事業名	児童虐待防止に関するネットワークの推進	計画策定時の 事業の方向性	拡大:関係機関との連携の強化
	進捗状況 (数値目標なし)	・月2回の調整会議 ・要支援家庭についての調整会議を月1回開催(23年度～) ・児童相談所とのケース検討会を月1回開催(25年度～)		進捗評価 A'

③	事業名	児童虐待防止に関する啓発活動の充実	計画策定時の 事業の方向性	拡大:市民意識の高揚
	進捗状況 (数値目標なし)	リーフレット、啓発ティッシュの作成・配布等の経年実施事業の他、毎年新たな啓発活動を実施。(主なもの:22年度 ほいっぶまつりでの啓発ブース設置/23年度 公用車啓発マグネット貼付開始、浜松・東三河フェニックス試合での啓発/24年度 市電・渥美線でのポスター掲示/25年度 みなとシティマラソンでの啓発、コンビニ・スーパーでのポスター掲示 等)		進捗評価 A'

総合評価	課題
B	児童虐待防止体制の充実については、職員の増員や関係機関との連携強化も進め、啓発活動も充実させてきているが、評価指標は目標値を大きく下回り、特に就学児については前回調査を下回る結果となった。これについては、一昨年と昨年の死亡事件による影響も考えられるが、今後もより一層の児童虐待防止に関する啓発活動に力を入れ、市民に広く認知されるように努める必要がある。 また、子どもの権利・人権に関しては子ども会議や人権啓発活動を行っているが、こちらも市民に広く周知されていないことがうかがえるため、取組の継続とともにPRと必要と考えられる。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	2. 子育て家庭を支える環境づくり			
施策の方向	2-1 全ての子育て家庭を支援するサービスの充実			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
希望した時期に保育サービスを利用することができた	就学前児童 78.4	就学前児童 85.0	就学前児童 72.2	▼
保育所での多様な保育サービスが充実している	就学前児童 52.4 就学児童 46.0	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 54.9 就学児童 52.0	△
子育てについて相談できる窓口が充実している	就学前児童 53.8 就学児童 43.1	就学前児童 60.0 就学児童 50.0	就学前児童 44.3 就学児童 34.6	▼
子育て家庭への経済的援助が充実している	就学前児童 25.5 就学児童 30.6	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 33.8 就学児童 32.9	△

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
C	計画期間内の達成が困難		
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 多様な保育サービスの充実

①	事業名	通常保育事業	計画策定時の 事業の方向性	継続
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 保育所 55か所 定員 8,320人	26年度目標値 保育所 57か所 定員 8,320人	25年度見込み 保育所 57か所 定員 8,390人
				進捗評価 A
②	事業名	延長保育事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施施設の増及び延長時間の検討
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 29か所	26年度目標値 31か所	25年度見込み 30か所
				進捗評価 C
③	事業名	休日保育事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施施設の増
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 1か所	26年度目標値 2か所	25年度見込み 2か所
				進捗評価 A
④	事業名	一時保育事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施施設の増
進捗状況 (数値目標有り)		21年度現状値 44か所	26年度目標値 55か所	25年度見込み 48か所
				進捗評価 C
ニーズ調査 参考	■前:問39、後:問38「一時保育」 ・事業を知っている 75.4% ・これまで利用している 10.7% ・今後利用したい 65.0%			

推進施策②: 子育てに関する相談、情報提供の充実

①	事業名	子育て支援の情報提供	計画策定時の 事業の方向性	拡大:子育て情報をニーズ別に提供
進捗状況 (数値目標なし)		平成25年2月 子育て支援情報ポータルサイト「育なび」開設 25年度月平均アクセス数:6,028件 (2月末現在)		進捗評価 A'
ニーズ調査 参考	■前:問32、後:問31「市の子育てに関する相談窓口について」 ・「相談窓口がどこにあるのかわからない」 就学前52.2%、就学後52.6% ■前:問38、後:問37「子育てに関する情報が簡単に入手できる」 ・「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」 就学前50.5%、就学後63.1% ■前:問39、後:問38「子育て支援情報ポータルサイト「育なび」」 ・事業を知っている 就学前9.1%、就学後4.7% ・これまで利用している 就学前3.7%、就学後0.9%			

推進施策③: 子育てに伴う経済的負担の軽減

①	事業名	子ども医療費助成事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:対象年齢の拡大
進捗状況 (数値目標なし)		平成24年度から中学生通院医療費1/2助成開始		進捗評価 A'

総合評価

課題

B

通常保育については数値目標を達成しているものの、「希望した時期に保育サービスを利用できた」と答えている割合は前回の調査結果を下回っている。更に、計画期間内の達成が困難な事業もあり、ニーズに対する保育サービスを今後いかに確保していくかが課題である。また、「子育てについて相談できる窓口が充実している」と答えた割合が前回調査値を約10ポイント下回っているが、ニーズ調査では「相談窓口が分からない」「子育ての情報提供が不十分」と答えている割合が50%以上を占めており、子育て支援情報ポータルサイト「育なび」の周知を徹底するとともに、より市民に分かりやすい相談窓口及び情報提供のあり方を今後も検討する必要がある。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	2. 子育て家庭を支える環境づくり			
施策の方向	2-2 安心して子育てできる環境づくり			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
子どもが安心・安全に出かけられる環境が整っている	就学前児童 26.5 就学児童 29.1	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 41.8 就学児童 36.3	就学前○ 就学 △
子どもに係る事故や犯罪の被害にあわないか心配である	就学前児童 52.1 就学児童 66.3	就学前児童 40.0 就学児童 50.0	就学前児童 43.6 就学児童 56.8	就学前△ 就学 △

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 安全で、安心して生活できる環境づくり

①	事業名	交通安全教育指導者・交通安全教育指導員・交通安全指導員の配置	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	交通安全教育指導者数 21年度 2人 → 25年度 2人 教育指導員数 21年度 1人 → 25年度 1人 交通安全指導員数 21年度 30人 → 25年度 30人		進捗評価 B'

推進施策②: 地域ぐるみで子どもを守る環境づくり

①	事業名	安全・安心まちづくり地域防犯事業	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	子ども見守り隊設置校区数 21年度 52校区 → 25年度 52校区		進捗評価 B'

②	事業名	安全・安心情報配信事業	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	豊橋ほっとメール登録者数 21年度4,803人 → 25年度13,200人(見込み)		進捗評価 A'

推進施策③: 子どもと安心して出かけられるまちの整備

①	事業名	赤ちゃんにやさしいまちづくり	計画策定時の 事業の方向性	新規
	進捗状況 (数値目標なし)	赤ちゃんの駅登録施設・店舗数 22年度 49か所 → 25年度 84か所(見込み)		進捗評価 A'
	ニーズ調査 参考	就学前問39(後38)「赤ちゃんの駅」知っている 65.2% 利用したことがある 10.7% 今後利用したい 65.0%		

総合評価	課題
B	「子どもが安全・安心に出かけられる環境が整っている」については、就学前児童において目標値には達しなかったものの前回調査を約15ポイント上回っている。その理由の一つとしては、新たに赤ちゃんの駅の取組を始めたことが考えられるが、知っていると答えた割合に対し利用したことがあると答えた割合は1割にとどまっていることから、利用者を伸ばす工夫が必要である。一方、就学児に関してはいずれの指標も目標値には届いていないが、前回調査を上回る結果が出ており、防犯や交通安全に対し継続して取り組んできた成果が見られ、今後も保護者の心配が軽減されるよう、引き続き取組を継続することが望ましい。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	2. 子育て家庭を支える環境づくり			
施策の方向	2-3 社会的支援を必要としている家庭への対策の充実			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
ひとり親家庭及び障害がある児童への支援が充実している	就学前児童 29.4 就学児童 33.0	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 42.2 就学児童 37.9	就学前○ 就学 △
外国人家庭への子育て支援が充実している	就学前児童 32.2 就学児童 36.1	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 43.1 就学児童 41.9	就学前○ 就学 △

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: ひとり親家庭における子育て及び母親等の自立への支援

①	事業名	母子家庭等就業支援事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:国の制度の動向により事業を拡大
	進捗状況 (数値目標なし)	・就業支援バンク登録者数 21年度 43人→25年度 33人(25年12月末現在) ・就業相談実績 21年度 459人→25年度 204人(25年12月末現在) ・高等技能訓練受給者数 21年度 27人→25年度 16人		進捗評価 B'

②	事業名	児童扶養手当	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	・児童扶養手当受給世帯数 21年度 3,106人→25年度 2,933人(25年12月支給時点) ※平成22年度～父子家庭も対象		進捗評価 B'

推進施策②: 障害がある児童の子育てへの支援

①	事業名	こども発達センターの運営	計画策定時の 事業の方向性	新規
	進捗状況 (数値目標なし)	相談・訪問療育支援等件数 22年度1,906件 → 25年度1,900件(見込み)		進捗評価 B'

②	事業名	障害者相談支援事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:事業の周知
	進捗状況 (数値目標なし)	相談件数 21年度 7,484人 → 25年度 11,000人(見込み)		進捗評価 A'

推進施策③: 外国人家庭における子育てへの支援

①	事業名	外国語版子育て情報ハンドブックの発行	計画策定時の 事業の方向性	新規
	進捗状況 (数値目標なし)	ポルトガル語版(21年度～) 21年度 400部 → 25年度 700部 英語版(23年度～) 23年度 150部 → 25年度 200部		進捗評価 A'

②	事業名	外国人の子どものアフタースクール事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施箇所の増
	進捗状況 (数値目標なし)	実施児童数 平成21年度 1,652人 → 平成25年度 1,753人		進捗評価 A'

総合評価	課題
B	就学前児童についてはいずれの指標も目標値には達しなかったものの前回調査を10ポイント以上上回る結果となった。しかし、就学児についてはいずれも微増にとどまっており、就学後の子どもを持つひとり親家庭や外国人家庭への支援、障害のある子どもの就学後の支援が課題である。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	2. 子育て家庭を支える環境づくり			
施策の方向	2-4 健康で子育てできる支援の充実			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
妊娠から出産、育児まで親子への健康管理が充実している	就学前児童 49.3 就学児童 52.2	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 67.6 就学児童 62.7	◎
子どものための医療施設が充実している	就学前児童 59.9 就学児童 55.4	就学前児童 70.0 就学児童 70.0	就学前児童 73.4 就学児童 65.4	就学前◎ 就学 ○

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 妊娠・出産・育児の支援

①	事業名	妊婦・乳児健康診査	計画策定時の 事業の方向性	拡大:検査内容の拡大
	進捗状況 (数値目標なし)	・妊婦健診:検査項目の拡大 ・妊婦乳児とも里帰り先での受診に対しての償還払いの実施		進捗評価 A'
②	事業名	乳幼児全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん事業)	計画策定時の 事業の方向性	継続
	進捗状況 (数値目標なし)	・看護師等が家庭訪問し、育児情報の提供、体重測定等を実施(継続) ・25年度より、新たに地域の民生児童委員による全戸訪問事業を開始		進捗評価 A'

推進施策②: 親子の健康づくりの推進

①	事業名	ティーンズマタニティクラス	計画策定時の 事業の方向性	新規 ※H23年度～
	進捗状況 (数値目標なし)	参加妊婦数 23年度 延43人 → 24年度 延37人 (25年度は3月に1回開催予定あるため参加者数未確定)		進捗評価 B'
②	事業名	フッ素洗口事業	計画策定時の 事業の方向性	拡大:実施園、実施校の増
	進捗状況 (数値目標なし)	実施園・校 21年度 63園・32校 → 25年度 67園・37校		進捗評価 A'

推進施策③: 小児医療の充実

①	事業名	休日夜間診療体制の推進	計画策定時の 事業の方向性	拡大:内科・小児科・歯科診療環境の整備
	進捗状況 (数値目標なし)	平成22年度に休日夜間急病診療所及び休日夜間歯科診療所が保健所・保健センターと同一敷地内へ移転		進捗評価 A'

総合評価	課題
A	全体として順調に進捗しており、就学児について一部評価指標の目標値に届かなかった部分はあるものの、それ以外は目標値を達成しており、これまでの取組による効果と考えられ、今後もこれらの事業を継続して実施することが望ましい。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	3. 子育てを社会全体で担う意識と環境づくり			
施策の方向	3-1 子育て支援社会づくり			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
子育てが家族や地域の人に支えられている	就学前児童 83.7 就学児童 86.1	就学前児童 87.0 就学児童 90.0	就学前児童 88.2 就学児童 89.1	就学前◎ 就学 △
同世代の子を持つ親同士が交流する場が整っている	就学前児童 48.0 就学児童 37.4	就学前児童 60.0 就学児童 50.0	就学前児童 45.4 就学児童 32.4	▼
子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者	就学前児童 92.2 就学児童 90.3	就学前児童 85.0 就学児童 85.0	就学前児童 91.0 就学児童 89.6	△
地域で子育てをする環境が整備されている	就学前児童 33.4 就学児童 33.8	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 40.3 就学児童 32.7	就学前△ 就学 ▼

※〔評価指標による評価〕◎:目標値を達成 ○:目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △:前回調査を多少上回る程度 ▼:前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
C	計画期間内の達成が困難		
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①: 子育てを社会で支える意識の啓発

①	事業名	はぐみんデーの周知	計画策定時の事業の方向性	拡大:PRの推進
	進捗状況 (数値目標無し)	子育て支援事業実施時にリーフレット配布、年1回広報とよはしへ記事掲載		進捗評価 B'

推進施策②: 子育ての仲間づくりのための支援

①	事業名	地域子育て支援センター事業	計画策定時の事業の方向性	拡大:実施施設の増
	進捗状況 (実施施設数のみ数値目標有り)	・実施施設数 21年度 2か所 → 25年度 2か所(26年度目標値 4か所) ・相談件数 21年度 541件 → 25年度 930件(見込み) ・交流事業参加者数 21年度 3,888組 → 25年度 5,250組(見込み)		進捗評価 C
	ニーズ調査参考	■前:問40「子育て支援センター」 ・地域の子育て支援拠点のうち、子育て支援センターを利用している7.8% ・いずれも利用していない57.0%		

②	事業名	つどいの広場	計画策定時の事業の方向性	拡大:実施施設の増
	進捗状況 (実施施設数のみ数値目標有り)	・実施施設数 21年度 1か所 → 25年度 3か所(26年度目標値 3か所) ・利用者数 21年度 9,626人 → 25年度 25,000人(見込み)		進捗評価 A
	ニーズ調査参考	■前:問40「つどいの広場」 ・地域の子育て支援拠点のうち、つどいの広場を利用している11.8% ・いずれも利用していない57.0%		

③	事業名	こども未来館子育てプラザの運営	計画策定時の事業の方向性	拡大:事業内容の拡充と拠点施設としての機能の充実
	進捗状況 (実施施設数のみ数値目標有り)	・実施施設数 21年度1か所 → 25年度1か所(26年度数値目標 1か所) ・利用者数 21年度 124,362人 → 25年度 140,000人(見込み)		進捗評価 A
	ニーズ調査参考	■前:問40「こども未来館「子育てプラザ」」 ・地域の子育て支援拠点のうち、「子育てプラザ」を利用している30.8% ・いずれも利用していない57.0%		

推進施策③: 地域で子どもを育てる体制の整備

①	事業名	ファミリー・サポート・センター事業	計画策定時の事業の方向性	拡大:会員数と利用者の拡大を図るためのPRを工夫
	進捗状況 (実施施設数のみ数値目標有り)	・実施施設数 21年度1か所 → 25年度1か所(26年度数値目標1か所) ・会員数 21年度 1,593人 → 25年度1月末 1,599人 ・活動件数 21年度 5,140件 → 25年度1月末 5,949件		進捗評価 A
	ニーズ調査参考	■前:問39、後:問38「ファミリー・サポート・センター」 ・事業を知っている 就学前43.5%、就学後44.8% ・これまで利用している 就学前4.0%、就学後4.9% ・今後利用したい 就学前47.3%、就学後24.8%		

総合評価	課題
B	各事業の進捗状況は、子育て支援センターを除いて順調に進捗しているが、評価指標で見ると目標値を達成したものは1つにとどまり、全体的に目標値に届かず、2つの評価指標では前回の調査結果を下回る結果となった。各事業の利用状況を見ると利用率が低いものも多く、子育て家庭のニーズに対し実施事業が利用に結びついていないと考えられるため、今後いかにして実際の利用につなげていけるかが課題である。

〔総合評価〕「評価指標による評価」と「進捗評価」について、A:いずれも良好 B:どちらかのみ良好 C:いずれも低い

基本目標	3. 子育てを社会全体で担う意識と環境づくり			
施策の方向	3-2 男女がともに子育てできる環境づくり			
評価指標	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
女性が希望通りに出産後も仕事を辞めずに働いていることができる	就学前児童 23.7	就学前児童 35.0	就学前児童 23.6	▼
子どもと一緒に時間を十分に取れると考える保護者	就学前児童 父親31.3 母親70.2 就学児童 父親30.0 母親60.2	就学前児童 父親50.0 母親80.0 就学児童 父親50.0 母親70.0	就学前児童 父親24.0 母親60.6 就学児童 父親28.5 母親55.2	▼
子育て支援に積極的な企業が多い	就学前児童 9.0 就学児童 10.9	就学前児童 20.0 就学児童 20.0	就学前児童 15.1 就学児童 12.2	△

※〔評価指標による評価〕◎：目標値を達成 ○：目標を下回るが前回調査を10ポイント以上上回る △：前回調査を多少上回る程度 ▼：前回調査を下回る

○主な事業の取組状況…評価指標関連事業で、計画策定時の方向性が「**拡大**」「**新規**」、または「**継続**」で指標との関連性が高いもの

〔進捗評価〕

数値目標あり		数値目標なし	
A	目標値を達成	A'	計画策定時の実績を上回っている
B	計画期間内に目標値に達成する見込み		
C	計画期間内の達成が困難	B'	計画策定時の実績と変わらない、またはそれ以下である
D	計画策定時の新規事業で、未着手だが計画期間内に着手予定		

推進施策①：仕事と子育ての両立支援

①	事業名	両立支援を充実させるための各種制度の周知	計画策定時の事業の方向性	継続
進捗状況 (数値目標無し)	○市民協働推進課 企業向け出前講座実施回数 21年度1回→25年度2回 啓発パンフレットを商工会議所会報誌と同配(24年度) ○商工業振興課 啓発パンフレットを商工会議所に委託し配布(24年度)			進捗評価 A'
ニーズ調査 参考	■前:問24-1、後:問24-1「子どもの数が理想より少ない主な理由」 ・仕事と子育ての両立が難しい、就学前30.2% 就学後33.3% ■前:問28「女性が育児をしながら働けるために今の社会に必要なと思うこと」 ・女性就労に関する理解を深めるため、雇用主や社会への意識啓発を行う 就学前 母親 38.4% 父親 27.6% 就学後 母親 36.3% 父親 24.8%			

②	事業名	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進	計画策定時の事業の方向性	新規
進捗状況 (数値目標なし)	講座開催回数・参加人数 21年度 1回 18人 → 25年度 1回 18人			進捗評価 B'
ニーズ調査 参考	■前:問28「女性が育児をしながら働けるために今の社会に必要なと思うこと」 ・男性の家事・育児参加など、働く女性への家族支援や理解の啓発を行う 就学前 母親41.3% 父親 29.4% 就学後 母親35.0% 父親 25.5%			

推進施策②：家庭生活における男女共同参画の推進

①	事業名	家庭生活における男女共同参画に関する意識啓発	計画策定時の事業の方向性	継続
進捗状況 (数値目標無し)	・啓発冊子の発行 21年度120,000部 → 25年度126,000部 ・セミナーの開催 21年度7回199人参加 →25年度8回190人参加(見込み)			進捗評価 A'

推進施策③：企業等による子育て支援の推進

①	事業名	豊橋市ファミリー・フレンドリー店舗の認定制度の設立	計画策定時の事業の方向性	新規
進捗状況 (数値目標無し)	26年度にファミリー・フレンドリー企業認定制度を実施予定			進捗評価 B'
②	事業名	企業・労働者・行政による3者懇談会の実施	計画策定時の事業の方向性	新規
進捗状況 (数値目標無し)	実施方法について検討中			進捗評価 B'

総合評価

課題

C

「女性が希望通りに仕事を続けられる」「子どもと一緒に時間を十分に取れると考える」についてはいずれも前回調査を下回っており、22年6月末に改正育児・介護休業法が施行されたとはいえ、国の統計によると子育て世代の長時間労働は依然として他の世代と比べて最も高い水準にあり、実態として仕事と子育ての両立に結びついていない現状がうかがえる。しかし、ニーズ調査で「理想とする子どもの数より実際の子ども数が少ない理由」として経済的理由に次いで挙げられているのが「仕事と子育ての両立が困難」であることから、事業主と子育て家庭(特に父親)の双方に対し、これまで以上に仕事と子育ての両立に対する啓発を進めていく必要がある。